

別紙-3 廃棄物の排出方法

(1) 使用船舶

一般水底土砂のしゅんせつから排出するまでの過程において使用する船舶の仕様及び使用台数を表-1 に示す。

使用する船舶について、万一、仕様が変更になった場合、規格が大きくなることで当該排出海域への影響が大きくなることが懸念されるため、申請時の排出量は超えないことを施工条件として設定することとする。

表-1 使用する船舶（予定）

工種	使用船舶	仕様	使用台数
土運船への排出	クローラークレーン 又は クローラーショベル	5t 吊り	1 台
運搬・排出	土運船	底開式 650m ³	1 隻
	曳船	鋼 D 1,000PS 型	1 隻

(2) 排出手順

① 土運船への積出

- 岸壁上に仮置きされた浚渫土砂を詰めた大型土嚢をクローラークレーン又はクローラーショベルにより引き上げ、土砂を土運船に排出する。

土運船に排出した土砂の量は、大型土嚢の数（1 個 1m³）を数えることで計量する。

② 土砂の運搬

- しゅんせつ土砂の運搬に使用する船舶として底開式土運船 1 隻を配備する。
- しゅんせつ土砂は、しゅんせつ土砂の仮置き場所である天津漁港から約 17km 離れた排出海域まで曳船により土運船を曳航しながら運搬する。（漁港から排出場所までおよそ 1 時間程度）
- 排出海域の位置確認は、曳船に装備された GPS により行う。
- GPS には、あらかじめ排出海域の中心の緯度・経度を入力し、当該範囲を計器上で目視確認出来るようにしておく。
- 排出海域への移動時には、曳船の操船者が逐次 GPS 上で自船の位置の確認を行う。



写真-1 曳船による底開式土運船の曳航状況

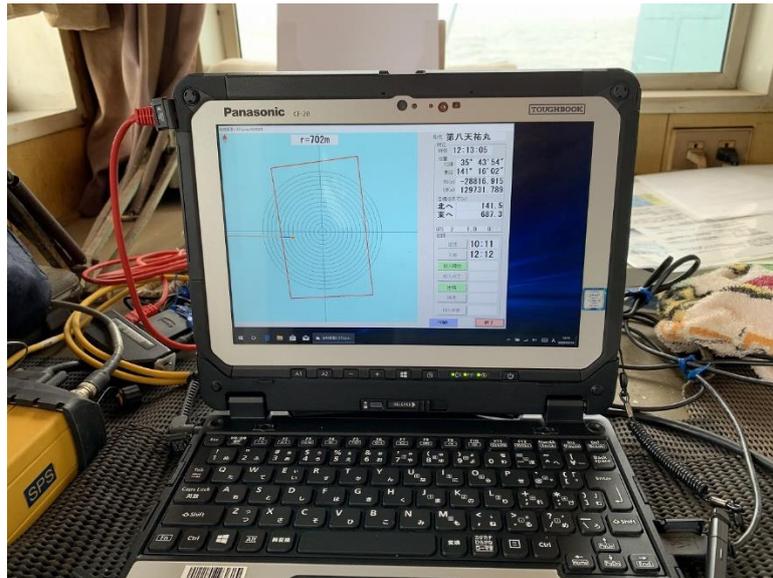
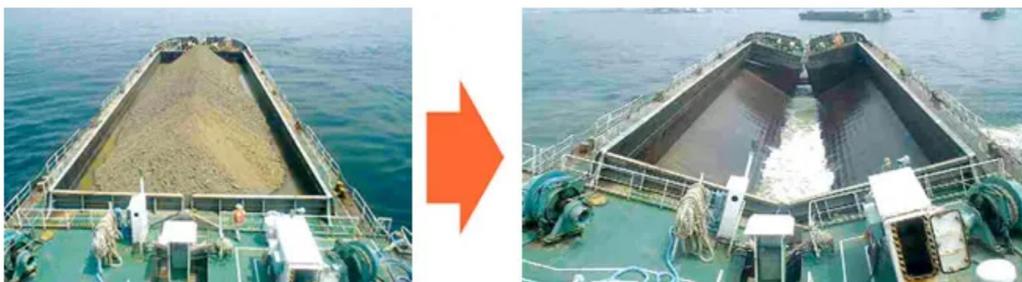


写真-2 GPSによる自船の位置確認状況

③ 土砂の排出

- ・ 排出する海域は水深が深く、アンカーによる固定は不可能であり、また、海流や波浪等による影響が大きいため、排出海域において排出位置をGPSにて確認しながら、排出作業を行なう。
- ・ 土運船に設けられた底扉を開放し、一般水底土砂を一気に海中に排出する。
- ・ 排出に要する時間は、その時の気象海象条件により左右されるが、およそ60秒である。
- ・ 排出海域の出入りや土運船による排出開始及び終了位置や数量等については、土運船に備え付けの「天津漁港廃棄物処理記録簿」に記載する。
- ・ なお、航行中には排出を行わない。



出典：一般社団法人 日本埋立浚渫協会 HP

写真-3 土運船によるしゅんせつ土砂排出状況

(3) 排出回数（頻度）

- ・ 年間排出量 1,560m³/年、1航海当りの排出量は 650m³であり、作業時間に制限（日の出から日没まで）があるため、1日あたりの最大排出回数は2航海/日とする。
- ・ 就業時間の関係や気象条件等により、積込量が減ずる場合は、排出回数は上述より増加する。